

# 2024.4 - 2025.3 Event Schedule

2024.4.21(日)まで 神田日勝記念美術館

## 2023年度コレクション展Ⅱ×ミニ企画展 日勝×〈文学〉展

神田日勝や、彼の作品が作中に登場する小説や脚本、エッセイなど、言語によって表現される芸術作品に注目し、それら〈文学〉と絵画との接点に注目する展覧会です。

2024.4.25(木)~2024.6.23(日) 神田日勝記念美術館

## 2024年度コレクション展Ⅰ コレクション選~30年の歩みを振り返る~

当館のロゴマークにも起用され、美術館の「顔」でもある《馬(絶筆・未完)》や、30年前の開館年に帯広信用金庫のカレンダーに選ばれた《晴れた日の風景》など、館蔵品の神田日勝コレクションのなから厳選し、一堂に会する展覧会です。

1階では概ね年代順に並べることで、日勝の画業の流れを辿ります。かわって2階では、「30年の歩みを振り返る」として、写真パネルや年譜、開館以来の歴代特別企画展のポスターを特別展示します。



神田日勝《晴れた日の風景》1968年  
神田日勝記念美術館蔵

2024.6.26(水)~2024.9.16(月・祝) 神田日勝記念美術館

### 特別企画展

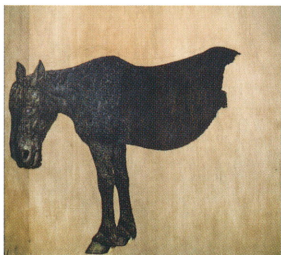
## 神田日勝記念美術館×釧路市立美術館所蔵作品交換展

### コレクションが出会う道東

本展は、釧路市・道東の作家の美術作品を収集している釧路市立美術館との所蔵品交換展です。

若くして賞を獲り、十勝を代表する画家として地元の画家仲間の憧れの的であった神田日勝(1937-1970)が出品していた全道展では、かつて十勝と釧路は同じ「道東支部」でした。その支部短信には日勝と並んで、望月正男、柳悟、米坂ヒデノリら、釧路の作家が台頭者として名を連ね、中には日勝同様、中央画壇への挑戦を試みた作家もいました。

釧路市立美術館では彼らのほか、のちに十勝画壇の指導的立場となる寺島春雄、日勝にとって独立展の先輩である松樹路人、全道展創設メンバーであった国松登らの作品も所蔵しています。漁業都市ながら異国イメージも有する、十勝と同じ「道東」釧路。豊かな自然の中で生きる動物、漁港の風景に仮託された労働者、厳しい環境で人間に寄り添って生きる牛馬など、道東の



神田日勝《馬(絶筆・未完)》1970年  
神田日勝記念美術館蔵

絵画は十勝で営農しながら作品制作を続けた日勝の生き様や彼の作品とも相通するものがあります。

普段同じ会場に並ぶことのないコレクションが出会う「場所」で、釧路市立美術館の所蔵品と、当館の日勝作品との対比を通じ浮かび上がる「道東の美術」を通観することを試みます。



柳悟《烈聖牛》1974年  
釧路市立美術館蔵

### 担当学芸員によるギャラリートーク(全2回)

日時: 7/6(土)、9/14(土) いずれも14:00~(30分程度)  
会場: 本展会場 参加無料(要観覧券)

### 特別ギャラリートーク

日時: 8/3(土) 14:00~(30分程度)  
会場: 本展会場 参加無料(要観覧券)  
講師: 沼前広一郎氏(釧路市立美術館学芸員)

※いずれも詳細は展覧会チラシおよび当館HPにてご案内します。

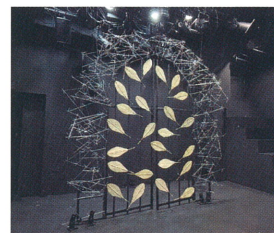
2024.9.21(土)~2024.12.8(日) 神田日勝記念美術館

## 企画展 神田日勝×半谷学展(仮)

半谷学(1963-)は、「再生」をテーマに作品を作り続ける、北海道帯広市出身の現代アーティストです。忘れ去られたり壊れたりした傘や、牡蠣養殖の過程で廃棄された海藻などから、美術作品を造り上げていく半谷のアートワークは、朽ちた家や空き缶、動物の死骸など、世の中から忘れ去られるものを描いてきた日勝と、「ともに社会から忘れ去られてゆくもの、朽ちゆくものへ生命を吹き込む営み」として、共鳴しうるものでしょう。神田日勝記念美術館では、北海道ゆかりのアーティストとのコラボレーション企画として、館蔵品の神田日勝作品と同じ空間にアーティストの作品を並べ、作品どうしの相互作用を通じて、互いの作品や作品世界の解釈を豊かにすることを目指しています。本展は、半谷が制作した立体作品やインスタレーションを日勝の絵画と共に展示します。異なる時代に生きる2人の作品の競演をご覧ください。



半谷学《wonder forest》2023年 作家蔵



半谷学《troy gate》2022年 作家蔵

### オープニングトーク

日時: 9/21(土) 時間帯未定  
会場: 本展会場 参加無料(要観覧券)

### 半谷学ワークショップ

日時: 12/8(日)  
時間帯および会場: 調整中

### 第21回日勝祭ギャラリートーク

日時: 12/8(日) 時間帯未定  
会場: 本展会場 参加無料(要観覧券)

※いずれも詳細は展覧会チラシおよび当館HPにてご案内します。

2024.10.8(火)~2024.10.15(火) 鹿追町民ホール

## 第30回 馬の絵作品展 観覧無料

当館では毎年全国の小中学生を対象に「馬の絵」の絵画コンクールを実施しています。入賞・入選者の表彰式にあわせて、子ども達の個性あふれる応募作品を全点(約600点)展示いたしますので、ぜひ会場でご覧ください。なお、本展終了後、入賞入選作品は巡回展にも出品されます。

巡回先: 道立ゆめの森公園(中標津町)、  
栗東歴史民俗博物館(滋賀県栗東市)、  
帯広信用金庫中央支店「おびしんふれあいギ  
ャラリー」(帯広市)



第29回馬の絵作品展 文部科学大臣賞  
釧路市立鳥取西中学校3年 松尾 悠菜

### 第30回馬の絵作品展表彰式

日時: 10/12(土)  
会場: 鹿追町民ホール

2024.12.11(水)~2025.4月上旬 神田日勝記念美術館

## 2024年度コレクション展Ⅱ 牛馬は何を語るのか?

神田日勝の短い画歴のなかで、数多く描き残してきた牛と馬が描かれた作品に焦点を当てます。乳牛、農耕馬、亡骸、そして半身の馬……それらの属性や、あるいは皮膚や臓器、性器といった部位、さらには彼ら/彼女らが置かれている場所にも注目します。



神田日勝《牛》1964年  
神田日勝記念美術館蔵

### イベントのご案内

第30回 蕪壱祭 日程: 2024.6.15(土)  
会場: 神田日勝記念美術館

神田日勝記念美術館の開館(1993年6月17日開館)を祝して開催されるイベントです。今年は帯広交響楽団協力によるアンサンブルコンサートが予定されています。

第32回 馬耕忌 日程: 2024.8.25(日)  
会場: 鹿追町民ホール

神田日勝の命日(1970年8月25日)にあわせて、その画業を偲ぶ追悼会を開催します。さまざまなゲストを招いて講演会や座談会、コンサート等を開催しています。

第22回 日勝祭 日程: 2024.12.8(日)  
会場: 神田日勝記念美術館

神田日勝の生誕祭(1937年12月8日生まれ)として、各種講演やミニ・コンサート等を開催します。

\* 鹿追町民ホールは美術館に隣接しています。  
\* 内容が変更になる場合があります。詳細は美術館HPと各イベントチラシにてご案内します。